「今考えること（広島げんばくの資料をみて）」

亀井小学校６年　　川田　優奈

私はある日、母に「ちょっと見て。」と言われ、けいたいの画面をなにげなく見ました。そこにのっていたのは、数々のしょうげき的な写真でした。

やけどで皮がめくれあがって足の骨が見えている少年の写真、目があいたまま亡くなっている女性の写真などでした。私は、「何がおこった時の写真なんだろうか。」と思い、興味をもちました。

それは、広島に原子ばくだんを投下され、被爆した人たちの写真の数々でした。私は、写真を色々見ていたら、当時の様子が次々に、頭にうかんできました。その中で、私の心に強く残ったものは、ガラスの水の中に入っていた「無脳児」の写真でした。このような子供は、原子ばくだんの、放射能によって、その後産まれた奇形児です。そして、「こんなことが、世の中にあっていいのだろうか。」と思いました。それは、戦争はおわったのに、今でも後い症などになやまされている人がたくさんいると知ったからです。

私には今年に産まれた弟がいます。元気に、無事に産まれたことがあたりまえのように感じていたけれども、「それは、一つ一つのきせきだったんだなあ。」と思いました。

今、安全に暮らせていること、今、ふつうに生活ができていることがとても幸せなことなんだなと、私は今回、広島のげんばくの資料をみて、たくさん学ぶことができました。

これからは、ふつうにご飯を食べることができることや、今健康に元気に生きていることを、「あたりまえ。」と思わないで、「幸せ」ということを実感して、一日一日を大切に、大事に生きていこう。と思いました。

「大好きな鳩山町」

亀井小学校６年　　野原　梨央

私が住んでいる鳩山町。私はこの鳩山町が大好きです。

私が鳩山町が好きな理由は、たくさんあります。第一に、鳩山町は自然がたくさんあるところです。私の家からは、春の桜、夏のあじさい、秋のイチョウ、冬の梅など、さまざまな植物が見えます。鳩山町は季節によって色々な草花や木が生え、いろいろな変化が見られます。町内には、ビルなど大きな建物はないけれど、そのおかげで、夜空の星が美しく、輝いて見えます。これは都市や大きな街ではなかなか見られないと思います。

第二に鳩山町は安全な町だというところです。鳩山町は今、死亡事故が起こっていない日が連続していて、埼玉県内で一位だそうです。来年四月には死亡事故０の日が三千日にもなるそうです。安全な町づくりは、町民みんなの努力があってのものだと思います。また鳩山町は自然災害があまり起こりません。地しんの多い日本では海が近くにあると津波の起こる可能性があります。鳩山町は海が近くになく、津波の心配もありません。また、火山などの山もありません。鳩山町は安全で住み良い町です。

最後三つ目は、鳩山町の人が優しいところです。私の周りにいる人はみんな優しくて、親切です。私があいさつすると、優しく返してくれて、私はいつも、「言えて良かったな。また言おう。」と、思います。また、知り合いの、おばあさんやおじいさんは、「大きくなったね。」などと、気軽に声をかけてくれます。声をかけてもらえると、すごくうれしくなります。

まだまだ好きな所はたくさんあります。これから、大好きな鳩山町の好きな所、良い所をもっと見つけて、私だけではなく、たくさんの人に鳩山町を好きになってもらうよう努力していくつもりです。

「世界中の貧困を救う一筋の光」

今宿小学校６年　　大野　咲耶

犯罪は世界中どこにでもあります。しかしあってはならないものでもあります。私は犯罪は平和をこわす原因だと考えます。犯罪がなくなれば、平和な世界ができると思います。

犯罪は貧困と深く関わりがあると新聞で知りました。そこで私は、アメリカの国際連合本部や日本の科捜研の未来犯罪予防所に入りたいと思っています。

私は国連のホームページで緒方貞子さんの事を知りました。貞子さんは日本人で初めて、そして女性として初の国連難民弁護官として世界で苦しんでいる難民の人々や食べる物のない貧困、汚れた水を飲んだ事によって起こるコレラなどの病気にかかっている人々を救って来ました。

国連のホームページで緒方さんは、「私は一日でも早く、この世界から戦争をなくしたい。いや、戦争という言葉をなくしたいです。私が生きているかぎり、日本の平和が守られますように願います。」とコメントをしていました。

私は「戦争という言葉をなくしたい。」という言葉にとても感動しました。

私は、テレビでこの国で独裁者をつくらないための授業を見ました。ヒトラーというドイツの独裁者は、何の罪もないユダヤ人を大量に殺しました。これは、今、世界の平和をこわすイスラム国と同じ事をしています、と伝えていました。私は、このような事は人として絶対にしてはいけない事だと思いました。人は、みんな幸せにくらす権利を持っています。それをうばってしまう戦争は絶対にしてはいけない事だと思いました。

今、世界で難民の事が問題になっています。戦争のために自分の国をすてて、国外へ逃げる人々が増え続けています。残念ながら日本は難民を受けいれる体制ができていません。日本はもっと難民を受け入れる方法を考えた方がいいと思います。

私は平和を願う気持ちから、ユニセフのホームページを見ました。「この人達はなんてすばらしい活動をしているのだろう。」と感激しました。そのホームページには犯罪は、貧困から始まります。と書いてありました。

私は、なぜ犯罪は貧困から始まるのだろうととても不思議になりました。

ユニセフの本部となる国際連合本部は、シリアやトルコでは、テロ組織のせいで貿易が難しくなり、食べ物が届かず、難民キャンプで、くらすしか、なくなる人達が大勢いると伝えていました。そして、中には兵士として使われる子供達がいると伝えていました。

私は、このような事実を知って、国際連合に入り、こういう人達を助ける仕事をしたいと思っています。そのために、英語やフランス語、世界の事をたくさん勉強したいと思います。

もう一つ、私がしてみたい仕事に、科学捜査研究所の職員があります。

この仕事は、事件現場のわずかな証こを研究し、犯人たいほに大きくこうけんする仕事です。たとえば、犯人のくつ跡から、はいていたくつの種類を探し出したり、たばこの吸

いがらからDNAをとり出して、犯人を特定したりします。

この仕事はパソコンを使ったり、科学実験をしたりして、捜査をします。小さな手がかりも見逃さずに、犯人をつきとめるのが、とてもかっこいいと思います。

私がこの仕事を知ったのは、母の友達にこの仕事をしている人がいたからです。

この仕事につくためには、大学の薬学部で薬の役目や使い方、どうゆう事がわかるのかという事を勉強します。そのために、今からいろいろな事を勉強して、この仕事がどのようにして、人々を守るのか深く考えていきたいと思います。

私がしょう来目指したい仕事についてお話しました。まだ、どちらの仕事にするか、決まっていません。

私はどちらの仕事についたとしても、世界中の貧困や犯罪について考えていきたいと思います。

私一人の力はとても小さいけれど世界中の人々と協力して、貧困で苦しむ人々を救う一筋の光になりたいです。

「交通事故のない未来にするために」

今宿小学校６年　　谷内　敦

この先、よりよい未来であるために、交通事故をなくすことは、とても大切なことだと思います。

なぜこのテーマにしたかというと、国語の授業で未来がよりよくあるためには、どのようにしていけばよいのか、学習したからです。

その中で、ぼくが重要だと思ったのが、この「交通事故のない未来」でした。

事故がない方がいいと思った理由は、交通事故で命を落とす人が多いことや、被害者も加害者も、おたがいにいやな気持ちになってしまうと思ったからです。

その他の理由として、ぼくは目の前で車どうしの事故を見たことがあり、その時とても、いやな気持ちになりました。

このような経験から、考えてみることにしました。

交通事故には、車と物のしょうとつ事故、車と車の事故や、車と歩行者の事故、歩行者と自転車の事故などいろいろあります。でも、車には人が乗っています。自転車にも人が乗っています。交通事故といっても、人と人がからんで起こることだとぼくは思います。だからこそ、おたがいに、一人一人が安全な運転、行動を心がけることが大切だと思います。

交通事故の原因には、不注意や、信号無視などがあります。運転手の健康状態が関係することがあったり、車は人間が造ったものですから、こしょうしてしまうことなど、車のいじょうが関係することもあったりします。

交通事故の発生状きょうを、警察庁のウェブサイトで調べてみました。交通事故死者数は、平成二十六年が４１１３人でしたが、二十七年には４１１７人と四人増えてしまいました。埼玉県のウェブサイトによると、埼玉県は、平成二十八年、９月末の時点で、交通事故の死者数が国内、第四位であることを知りました。

みなさん知っていますか。鳩山町は、すごいです。なんと過去五年間の間で、死亡事故は、一度も起きていません。このまま死亡事故ゼロをいじしていきたいです。そして死亡事故ではない事故も、ゼロになるのが望みです。

ぼくは交通事故をゼロにするために、いろいろな対策を考えました。

車を全て自動運転にするというのも考えましたが、「すべて」というのは今のところ難しいと思います。

車そのものをなくしてしまうというのも考えましたが、車は今ある移動手段の中で一番便利だと思うので、それは不可能です。

その中に、自分が、一番現実的だと考えたものがあります。それは、自動車免許を持っていられる期間を決めるということです。

しかし、免許を持っていられる期間が短くなり、免許の返のうが早まってしまうと、家

の近くにバスや電車が通っていない人は、生活が不便になってしまうと考えました。
　そこで、対策として、バスや、タクシーを増やすこと、それらの無料けんを配ふすればいいと考えました。また、鳩山町には、「デマンドタクシー」があります。いわゆるタクシーなのですが、乗るには予約が必要だそうです。予約のシステムをもっと簡単にすれば、利用する人が増えると思います。
　最近は、一人暮らしの高れい者も増えています。ぼくの祖母も一人暮らしです。一人だと、不安だったり、何かさみしいと思います。でも、バスやタクシーが増えて、近所の人どうしで、いっしょに乗り合い、ちょっとした会話をすれば、とても楽しい時をすごせると思います。また、いっしょに乗れば、「この人は元気だな」という様な、」健康状態の確認ができると思います。
　交通事故には、防げる事故もあります。ぼくは、自転車にのっていました。まがり角は草が生えていて、見通しが悪い道でした。まっすぐ行こうと思ったけど、まがり角にいた車が急に見えたのでこわかったです。
　ぼくは、このようなことが原因で事故が起きていることを知りました。
　対策として考えたのが「草をかる」ということです。でも、ただかりたい人がやるだけでは、ダメだと思います。地域の人が、みんなで協力して作業するのが効果的だと思います。
　それぞれの地域で、「この日は、除草作業をしましょう。」という日を決めればいいと考えます。
　交通事故のない未来にしていくためには、自動車免許の持っていられる期間を決める。そして、バス、タクシーを増やし、それらの無料けんを配ふする、というのが効果的だと思います。また、地域の人がみんなで除草作業をする、というのも、事故をなくすのに、かなり効果があると思います。
　ぼくは、この先、よりよい未来であるために、交通事故をなくすことは、とても大切なことだと思います。
　事故をなくすためには、対策として、自動車免許の持っていられる期間を決めること、そして、バス、タクシーを増やし、それらの無料けんを配ふするというのがぼくの考えです。
　草をかる、のように、本当にちょっとしたことで、事故は防げることもあります。だから、面倒くさがらずに、少しずつでも、対策することが大事だと思います。
　事故が減って、なくなれば、事故にあい、いやな気持ちになる人も、減って、いなくなると思います。
　そして、ぼくの考えの中で一番重要だと思うのは、一人一人が、それぞれの立場のこと、気持ちを考えて、おたがいに、住みよい社会かん境を整えることが大切だと思います。

「僕が考える未来の鳩山町」

鳩山小学校６年　　飯島　昴

鳩山町の未来をよりよくするためには何が必要か。そう質問されたら僕は地区という垣根を超えて町全体で関わり合う機会を多く持つことが必要だと答える。

それが町全体が一つにまとまり、この町に住む全ての人達が心豊かに幸せな生活が送れる第一歩だと考えるからだ。

僕は夏休みに町で行われた色々な行事に参加した。納涼祭りや子ども大学鳩山をはじめ、毎年行われているものや今年初めて行われた行事など色々なことに参加した。そこで僕は気付いたことがある。参加した人たちはみんな知り合い同士で交流し、地区や学校が違うとあまり交流していないということだ。

考えてみると僕自身も今年の夏休みに参加した子ども大学鳩山ではなかなか交流の場を広げることができなかった。ぼくはぼく自身をふくめ、もっと広い視野で物事を見ていかなくてはいけないと反省した。

ただ具体的にどのような心がけが必要かと考えるとなかなか難しいことだと思う。しかしよく考えてみると今の日本と世界との関係にヒントがあるのではないかと気付いた。

今の日本は色々な文化が世界に通用し、たくさんの外国人が働きに来たり観光に来たりしている。それは日本という国に誇りを持ち積極的にアピールし、外国との関わりを多く持とうと努力してきた人がいたからだと思う。その結果お互いが理解し合いよりよい関係を築くことができたのだ。

鳩山町に住む僕たちも自分の住む町に誇りを持つ、そのことがまずは大切なことである。そしてそれぞれの学校や地区の良さを積極的にアピールし、そのことをお互いに理解し共有することで地区という垣根を越えて鳩山町全体を盛り上げていくことができるのだと考える。

幸い鳩山町には良さをアピールできる場がたくさんある。そこに積極的に参加し、一人一人が個人ではなく全体を考えて行動すれば鳩山町の未来は輝かしいと確信している。

「感謝の心で幸せ」

鳩山小学校６年　　須藤　咲良

人は感謝の心をわすれていないだろうか。これは、生きている中で大切なこと、わすれてはいけないことである。感謝の心をわすれないことは、毎日幸せに過ごすために大切だと私は思う。

私は祖母に会った。祖母と話をしていた時に私が「学校に行くの面倒くさいな。台風とか来ないかな。」と言った。すると祖母が「当たり前が幸せなのよ。」と言った。私は「当たり前が幸せ」の意味がわからなかった。その後、母に聞くと「世の中には学校に行きたくても行けない子がいる。そんな人に比べたら幸せってこと。」と言った。

幸せに過ごすには何ができるだろう。そう考えると赤い羽根募金を思い出した。赤い羽根募金は困っている人達の助け合い運動だと知った。困っている人とは、家が貧しくて毎日ご飯が食べられない人などで、赤い羽根募金はその人達にお金を分けている運動だそうだ。私はそれを知ると毎日朝・昼・夜ご飯が食べられることが当たり前であり、幸せだと思った。

ただ、感謝の心をわすれないことと幸せとがすぐには結びつかない人もいるだろう。確かに私の周りの人達が感謝の心をもっていても、それで幸せな町であるとは感じにくい。しかし、その町の人々が感謝の心をわすれないのならば、その場所・その土地が平和であること。平和というのは幸せという意味でもあると思うからである。

祖母や母からは、「食べられることは尊い命をいただいている。住めるということはだれかの努力があって家が建っている。学校に行けることはご先祖様が守ってくれている。だから、当たり前の毎日が幸せなことだから全て感謝する」と教わった。私達の身のまわりにはたくさんの感謝することがある。だから、私は感謝の心を忘れないでことで、どんな場所にいても幸せを感じる。

感謝の心をもつ人がもっと増えてほしい。そして幸せな町が少しでも増えてほしい。私にできることは感謝の心を忘れないことであり、それを広めることだ。感謝の心をわすれないことで幸せな町づくりつながっているのだと思う。

「あいさつの輪」

鳩山中学校２年　　吉澤　和輝

みなさんこんにちは。鳩山中学校２年の吉澤和輝です。僕は先日、前生徒会長から生徒会長を引き継ぎました。そして今、新体制となった生徒会本部を、いかにしてまとめあげるかを、日々考えています。

そもそも生徒会本部は、全生徒で構成された生徒会という組織の中心となって、まとめ上げるため、生徒から信頼され、期待に応えられるような存在でなければなりません。そして、その信頼してもらえる生徒会本部をつくることが、大きな課題であり、難題なのです。この課題を成し遂げるには、様々ことに積極的かつ挑戦的な姿勢で取り組んでいく必要があると思います。そこで、考えたのが、ある一つの習慣を徹底することで、生徒会にとどまらず、学校全体をよりよい方向へと変えていけるのではないかということです。

その習慣とは、「挨拶」です。おそらく誰もが、そんなものは当たり前のことと考えているでしょう。しかし、これほど効力のあるものはなく、実例もあります。

よく、挨拶のできる部活は強いと言われます。僕は吹奏楽部に所属していますが、確かにコンクールで好成績を上げている学校の挨拶はみな素晴らしいです。もちろん、厳しい練習をかなりの時間行っていることは言うまでもありませんが、それだけではありません。周囲に気を配り、大きな声ではっきり意思表示することで、意識も高まっているのだと思います。また、挨拶のできる学校は活気があって落ち着いており、いじめなども少ない、というような話もよく耳にします。さらに、昨年の職場体験では、まず、挨拶や返事から始まり、社会の一員として必要不可欠なものであることを痛感させられました。

鳩山中学校は挨拶のしっかりできる学校だと思っていました。しかし、最近それが薄れているという、先生方からのご指摘がありました。確かに、周りの様子を見ていると、挨拶の声が小さかったり、声を全く出さない人も見受けられます。しかも、心からというより、挨拶をさせられているようにも感じられます。そこで、先生から言われてやるのではなく、気持ちよい挨拶が自然にできる学校にしていけば、学校生活が活気あるものとなり、さらに良い方向に進んでいくと思います。

そのために、本部が具体的にできることは、当然ながら本部が先駆けとなって挨拶を積極的に行うことです。本部では、毎週月曜日に朝の挨拶運動を行っています。しかし、形式的なものと捉えられ、その効果はあまり表れていなかったように思われるので、早急に改善していきたいと考えています。

行事運営も本部の大切な仕事ですが、このような日常的な問題に取り組むことはさらに大切だと思います。そして、挨拶だけにとどまらず、清掃活動や靴そろえなどへも活動を広げ、学校生活のプラスになる活動につなげていきたいです。もちろん僕一人の力では到底達成できませんが、僕には信頼できる本部の仲間がいます。新生徒会本部のメンバーはみな個性豊かで、自分の考えをしっかり持っているので、きっと力になってくれるはずで

す。まず、僕たちがしっかりした挨拶の輪を作って、大きな輪に広げていき、先輩方をお手本に、鳩中の伝統を引き継ぎながら、改善と向上に努めていきたいと思います。

ここまで、学校に観点をおいてお話してきましたが、鳩中で挨拶が活発になることは、鳩山町全体にも関わっていきます。生徒会本部は学校のみならず、地域の期待も背負って活動していかなければならないと思います。鳩中が挨拶活発化の先駆けとなり、人に優しい町づくりに貢献していけたら嬉しいです。

「今の私とこれからの私」

鳩山中学校２年　　梶田　紗月

みなさんこんにちは。鳩山中学校二年の梶田紗月です。

私は今、毎日がとても楽しいです。この先、生きていく中でどれほどの苦労があるのか、まだ１４年しか生きていない私には、とうてい想像できません。でも、今の私の中学校生活が最高に充実していることはまちがいありません。

最大の理由は部活動です。私はバスケが恋人と言っていいくらい大好きで、中学に入って迷わずバスケット部に入部しました。特に、先輩方が引退した後は、新人戦に向けて、全力を注いでいたのですが、新人の数週間前にバスケの試合でケガをしてしまったのです。手術をするかどうかの大ケガで、部活も禁止されました。今までの努力が一瞬で消え去るようで、つらくて、悲しくて、涙が止まりませんでした。

部活に行けば、仲間がバスケットをしている傍らで、ただ座って見ていることしかできませんでした。更に、早く直さなければ、という焦りからか、ケガがどんどん悪化していき、結果的に最大の目標であった新人戦に出場できなくなりました。そのときの悔しさは今でも忘れません。でも、バスケをやめたいとは、一度も思いませんでした。反対にバスケがしたい、上手くなりたいと思う気持ちが強くなる一方でした。このケガを乗り越えて、私は改めてバスケが好きだ、と実感しました。そして、これから今まで以上に努力して、休んでいた分を取り戻して、誰よりも上手くなりたいです。この悔しさ、つらさが、私を強くしてくれるはずです。

そして、そのつらかった時私を支えてくれたのが友達でした。精神的につらい中、毎日楽しい学校生活が送れたのは、一緒に笑い合える友達がいたおかげです。友達は何にも変えられない、一生の宝物です。将来はこの友達と一緒にお酒でも飲みながら語り合えるような関係になりたいです。

ところで、この場をお借りしてみなさんにお伝えしたいことがあります。今、中学校では自分の将来に向けての活動をかなり行っています。目先のことだけにとらわれがちな私達にとって、とてもありがたいことだと思っています。私達中学生には大きな未来があります。将来なれる職業も昔よりかなり増えました。その中で、私は将来看護師になりたいという夢を見つけました。幼い頃から、漠然とした「あこがれ」はありましたが、はっきりとした目標に変わったのです。高齢化が進んでいく社会の中で、看護師は必要不可欠なものですし、何か人の役に立つ仕事がしたいという気持ちが強くなりました。更に、看護師をしている母の影響も大きいです。母は毎日楽しそうに仕事場へ通っています。看護師の仕事は決して楽な仕事ではないと思いますが、そんな母を見ていると、本当にこの仕事が好きなんだなと感じます。私も将来なれるかわからないし、違う職業を目指しているかもしれません。でも、どんな職業でも、社会に貢献できて、楽しい、好きだと思えるような仕事に就きたいです。そして、時には優しく、時には厳しくしかって、ここまで私を育

ててくれた温かい母のような人になりたいです。

この他にも私が密かに抱いている夢はたくさんあります。みなさんにも願いや夢は必ず一つはあるのではないでしょうか。実現すればそれはうれしいことですが、たとえ叶わなくても、心の中で願いそれに向かって進んで行くことで、生活に張りや潤いを与えてくれると思います。

まだ１４年、人生の半分も生きていない私達は、知らないことばかりです。でも、自分の前には輝かしい未来が待っていると信じて、たくさんのことを経験し、たくさんの人と出会って、一歩ずつ前進していきたいです。

今日は話を聞いていただき、ありがとうございました。